活き活きと輝き、誇れるまちの今をあなたに届ける
広報湯前
Public Relations
Since1962.
https://www.town.yunomae.lg.jp/
［まちの情報誌ゆのまえ］
12
TheMonthly
Dec_2018
Vol.450
魂を届ける―
特集
消防甲子園

第２分団第１部が全国大会にかけた思い――

❶勝負はコンマ１秒。ホースの展長を入念に確認❷選手の指導にも力が入る❸チームワークはばつぐん。真剣な練習の合間には笑顔もよく見える

特集 消防甲子園

「消防の甲子園」と呼ばれる全国消防操法大会。その頂に本町の第２分団第１部（濵砂貴之部長＝８人）が挑んだ。

第２分団第１部は上染田、下染田の２地区を管轄。本町消防団のほとんどが小型ポンプを使用するが、同部と第１分団第１部（上里）の２部は、ポンプ車を使用し、訓練や消火活動にあたっている。

ポンプ車の操法は、５人一組で行う。第一線・第二線の２本の消防ホースの展長、接続をすばやく行い、標的に向かって放水。タイムや動作の正確性などの技術面のほか、選手の士気、チームワークも対象となり２００点満点で評価される。

２月から10月まで半年以上も練習を重ねてきた第２分団第１部。全国の頂点を目指す、選手たちの表情は真剣そのもの

椎葉恭介さん（42＝下染田）が指揮を執る同部は1～4番員まで30歳以下の若手がそろい、スピードが持ち味。４年前の県大会後から今のメンバーで練習を重ねる。チームは３年目を迎え、規律とスピードを両立。本町の操法大会では１８８・08点（第一線：52・96秒、第二線：61・96秒）で優勝。郡大会は１８２・５点（第一：51・68秒、第二：64・49秒）で２位。９月の県大会では１８７点（第一：50・49秒、第二：62・31秒）と良い結果を出してきた。全国大会出場は12年ぶりの快挙だった。

県大会後は、２月から行っていた週２、３回の練習を、４日に増やしてレベルアップを図った。選手同士でよく話し合いながら、ホースの伸ばし方など工夫を凝らしてタイムを縮めていった。

仕事後の練習は疲れるし、家には家族もいる。「全国の優勝旗を湯前へ」。強い気持ちが選手たちの体を突き動かした。消防関係者が指導し、他分団の団員は交代で応援にかけつけて練習を支えた。

❶よく話し合いながら工夫をしてタイムを縮めた❷交代で練習を支える他の団員❸後ろから選手を見守る濵砂部長

プレッシャーや地元からの期待。たくさんの思いを背負って挑んだ夢の舞台

たくさんの観客が見守る中、最後まで堂々と競技した選手たち

4必勝を願い、掲げられた応援旗5「熊本県代表」の名誉をたった8人でつかみとった6応援者たちが選手を激励。1列になり、ハイタッチを交わした

1最後まで大きな声で前を向き、堂々と競技する選手たち2スタンドには家族、住民などたくさんの応援団3会場には全国のポンプ車がずらり

悔しさ残る17位。4年後、もっと強くなる

忘れ物は、必ず取りに行く―

10月19日、富山県富山市広域消防防災センター。選手は消防甲子園の舞台に立った。

大会は消防庁と日本消防協会が主催。昭和43年以降、2年ごとに開催し、26回目。47都道府県の代表48隊（ポンプ車の部23隊、小型ポンプの部25隊）が出場した。

会場には巨大スクリーンが設けられ、特設スタジアムは1万人以上の応援者でうめつくされた。午前9時、音楽隊の演奏に合わせて入場行進。第2分団第1部はプラカードを持つ椎葉英志（えいし）さん（36＝下染田）を先頭に堂々と入場した。開会式後、地元から駆け付けた町、消防関係者や家族、住民らが激励。選手たちは一人一人とハイタッチを交わし、道具の最終確認やウオーミングアップをして出番に備えた。

責任や期待。選手のプレッシャーは計り知れない。福井県代表の競技が終わり、17番目。出番がやってきた。全国の選手を襲い続けていた魔物が第2分団第1部を襲う。指揮者の「集まれ」の声がかかるも、選手の足が集合線にそろわない。ホースの展長ミスなど、普段は絶対に起きないことが起きてしまった。あきらめず、最後まで全力を尽くしたが、結果は148点（第一：57・85秒、第二：62・86秒）で17位。優勝得点は183点。優勝を目指せる実力があっただけに、選手たちにとって悔しい結果だった。

濵砂部長は「上位入賞できなかったが、選手は仕事、家族との時間など多くのものを犠牲にして頑張ってくれた。誇りに思う。全国に連れて行ってくれたことに感謝したい」と選手をねぎらう。「全国に残した忘れものは必ず取りに行く」と話す選手たち。悔しさは収穫になった。4年後のリベンジに燃えている。

頼もしい湯前のナンバーワン

消防団長
土屋 登志久（としひさ）さん
（56＝馬場）

各都道府県のトップが集まる大会です。ほんの少しのミスが大きく響きます。選手たちはとても悔しかったと思いますが、力いっぱいやってくれました。地元からもたくさん応援にきていただき、声援が選手の力になりました。第2分団第1部は有事のときにも頼もしく、湯前の消防団を引っ張る存在です。選手たちの熱心な姿勢が他の団員にも伝染してほしいです。

INTERVIEW

全国大会を振り返って

指揮者 椎葉 恭介（きょうすけ）さん（42）

2年ぶりの全国大会出場はうれしく、誇りです。2-1のみんなや、指導してくれた皆さん、練習を手伝ってもらった消防団員に感謝しています。若い選手がたくさんいるので、4年後は全国大会で入賞してもらいたいです。

1番員 中釜 由晴（ゆうせい）さん（26）

初めてばかりで、戸惑いや緊張がありました。満足のいく結果ではありませんでしたが、各代表の操法を見て、自分たちに足りないものを感じられた有意義な大会でした。今後は全国との差を縮められるよう頑張ります。

2番員 瀬谷 憲功（のりよし）さん（30）

皆さんの応援もあり、精一杯競技できました。自分の力が出せず、思うような結果が出なかったことが悔しいです。大切な経験をこれからの消防団活動に生かします。足りない部分を直し、これからの大会に臨んでいきます。

3番員 中田 潔裕（ゆきひろ）さん（27）

今までと違う雰囲気に緊張しましたが「もうやるだけだ」と言い聞かせました。皆さんの指導や応援のおかげで頑張ることができました。「次は絶対」という気持ちが強いです。4年後、また皆さんを全国に連れて行けるように練習し直します。

4番員 椎葉 浩樹（ひろき）さん（27）

少ない人数で全国大会に行けたことを誇りに思っています。2月からずっとあきらめずに練習してきました。県代表として出場する全国大会の雰囲気はなんとも言えない大舞台でした。4年後のリベンジに向け、初心に戻り頑張ります。

補助員 椎葉 英志（えいし）さん（36）

全国大会では、みんなが満足できるような結果が出せなかったのは残念でしたが、一つの目標に対して、本気でやることの大切さを学びました。本当に良い経験ができたと思います。また全国の舞台に立てるように努力したいです。

部員 沖松 泰豪（たいごう）さん（23）

補員として参加し、悔しい思いをしましたが、私も選手として全国大会に出たいと心から思いました。経験も技術も未熟ですが、今後力をつけて、必ず全国大会で良い結果を出したいです。

❶写真撮影も楽しみの一つ❷ガラススクリーンにイラストを描く漫画家の村枝賢一さん❸湯前中吹奏楽部の和太鼓と吹奏楽の演奏❹名物黒毛和牛の串焼きは絶品❺好きなものを作る木工体験

フォトリポート　ゆのまえ漫画フェスタ

本気の遊びは、

とっても面白い。

2018ゆのまえ漫画フェスタ（藤本美紀（みき）実行委員長）は11月11日に湯前まんが美術館一帯で開かれ、メーンのアニソンライブをはじめ、漫画イベント、コスプレなどでにぎわい、1万6千人（主催者発表）が来場。会場はたくさんの人の笑顔であふれていました。

❻車両を展示した自衛隊員も笑顔❼笑顔でもちを販売する湯前小の児童❽・⓯メーンのアニソンライブは佐咲紗花さんと喜多修平さん❾湯愛の利用者たちは応援ボードをもってライブを鑑賞

❿ICT体験でタブレットを使う親子⓫得意技をステージで披露⓬「オタ芸」で会場を盛り上げる参加者⓭コスプレは恥ずかしいけど、笑顔でハイチーズ⓮・⓰-⓴会場内には達人からかわいらしいコスプレーヤーまでたくさん

2018ゆのまえ漫画フェスタ
漫画熱は最後の最後まで

■1もち投げにアニソン歌手も参加し、最後までにぎわう会場■2漫画家5人の作画ライブにくぎづけの参加者■3会場内ではコスプレーヤーと記念撮影する人が続出

漫画フェスタは「漫画のまち」として本町を県内外に広くアピールしようと開かれ、ことしで27回目。

町内の優良生産者の表彰が行われ、消防ラッパ隊のファンファーレで幕を開けました。会場には人気アニメ・漫画のキャラクターに仮装したコスプレ姿の人が多数。本町職員もコスプレで来場者をもてなしました。

ステージでは、芦北町在住の漫画家、村枝賢一さん（仮面ライダーSPRITSなど）ら5人のトークショーを開催。那須良輔風刺漫画大賞の表彰式、コスプレ参加者の紹介、ヒーローショー、東方組太鼓踊り、慈琉会のエイサー、湯前中学校吹奏楽部や慈光こども園の鼓笛演奏などで盛り上がっていました。

メーンのアニソンスーパーライブでは、若者を中心に人気を集めるアニソンシンガーの佐咲紗花さん（ガールズ＆パンツァー最終章など）と人吉球磨を舞台にした「夏目友人帳」の主題歌を歌う喜多修平さんが持ち歌を熱唱。熱狂的なファンは、曲に合わせて手や体を動かし、ライブを楽しんでいました。

改善センター大集会場では、トークショーを開催した漫画家たちによる作画ライブや風刺漫画大賞作品の展示、漫画家、前川しんすけさんの似顔絵コーナーがありました。作画ライブを間近で見学した人たちは圧倒的な画力に見とれていました。

レールウイング内の展示体験販売施設ではICT（情報通信技術）利活用推進協議会がキッズ向けのものづくり体験を行い、子ども連れでにぎわっていました。

ほかにもJA女性部の肉うどんバザーなどの各種出店や林業、商工会青壮年部の遊具・ゲーム、健康福祉のコーナー、自衛隊のグッズ販売や車両展示などもあり、会場では、大人から子どもまで一緒になって楽しんでいました。閉会後のもち投げには佐咲さんと喜多さんの二人も参加。イベントは最後の最後まで盛り上がっていました。

モニュメントを除幕する関係者

レールウイングトイレ・モニュメント除幕式
にぎわいづくり、前進

湯前駅レールウイングのトイレ・モニュメント除幕式が11月11日に現地で開かれ、関係者12人が出席し、施設の完成を祝いました。

駅周辺のにぎわいづくりや利用者の利便性を向上しようと、まんが図書館側のモニュメント本体を修繕し、簡易屋根やガラススクリーン、男女別のトイレを設置しました。

漫画フェスタ開始前の午前8時30分から除幕式が開かれ、関係者5人が除幕。工事を請け負った高木工務店と設計監理を担当した西日本建設測地社に鶴田正己町長から感謝状が贈られました。ガラススクリーンには4人の漫画家がイラストとサインを描き込みました。施設は指定管理者の奥球磨スマートタウン研究所が管理します。

■1ゲストが即興で描いた絵を見て、盛り上がるファン■2村枝さんは自身が愛飲する球磨焼酎とハロウィンをかけ合わせたキャラクターを作成■3冗談を交えつつ、楽しく進むトーク

漫画フェスタ前夜祭
ゲストのおもてなしにファン感動

ゆのまえ漫画フェスタの前夜祭が11月10日に農村環境改善センターで開かれ、人気漫画家らのトークショーや画力対決などにファン約150人が集まり、盛り上がっていました。

ことしは漫画フェスタ当日もトークショーを開いた村枝賢一さん、熊本市出身の東毅さん（電波教師など）をはじめ、皆川亮二さん（ARMSなど）、「仮面ライダーアマゾン」（1974年～75年放映）で主役の山本大介を演じた岡崎徹さんが登場。初参加の漫画家のヒロユキさん（アホガールなど）がサプライズゲストとして登場しました。遠くは東北地方から来場するなど、熱狂的なファンが集まりました。

トークショーでは、司会の前田シゲさんと冗談を交えつつ、それぞれの漫画の描き方やデビューまでの道のりなどを語り、会場の笑いを誘いました。参加者からの質問コーナーでは「アイデアが出てこないときは何をするか」「プライベートではまっていることは何か」など公私にわたり質問が飛び交いました。漫画家を目指す参加者には皆川さんが「ボツをくらってもあきらめないこと」などと温かいエールを送りました。

メーンの画力対決では、参加者のリクエストの中からテーマを決めました。「湯前のハロウィン」「昨年のゲスト、声優の関智一さんの似顔絵」などが挙がり、ゲストたちは数分で一枚の絵を描き上げました。参加者は漫画家の圧倒的な画力や俳優のユーモアあふれるイラストを見て、写真を撮ったり、声をあげて笑ったりして前夜祭を楽しんでいました。

終了後は、出入口でゲストが参加者をお見送り。参加者は一人一人としっかり握手を交わしていました。

抽選で5人のサインが入ったうちわがプレゼントされた

❶木を切り、森に光を届かせる参加者たち❷サツマイモを掘り起こし、喜ぶ子ども❸丸太の早切り競争は大盛り上がり❹木が間引かれ、手入れが行き届いた

Hotopi ホットピ ホットなわだいをあなたへ

No.1

ＪＴの森ゆのまえ２期10年

木を間引き、森に光を

本町と日本たばこ産業株式会社（ＪＴ）が進める「ＪＴの森ゆのまえ」の活動が10月27日にゆのまえグリーンパレス一帯と近くの町有林で行われ、社員や地元住民ら約２４０人が参加。形の悪い木や枯れた木などの間伐や除伐に汗を流しました。

本町は県内初となる「企業と協働の森づくり」を平成21年に結び、１期５年の期間で森林を整備。２期目までに２０７ヘクタールの森林を整備し、現在最終年を迎えています。

毎年春と秋の２回、森林保全活動で社員と地元住民が交流。今回は、九州各地の社員とその家族、湯前小学校の緑の少年団、地元住民が参加しました。

グリーンパレス炊飯棟で開かれた開会式では、ＪＴ九州支社の呑田伸二副支社長が「地元の皆さんの協力があってこそ活動ができる。けがのないように注意して、自然を満喫してほしい」とあいさつし、鶴田正巳町長が参加者を歓迎しました。

開会式後、参加者は班に分かれ、直径20センチの丸太の早切り競争を行い、交流を深めました。その後、10年前にスギ、ヒノキ、ヤマモミジなど８種類の木を植えた場所へ移動。上球磨森林組合の職員の指導を受けて、混み合った木をのこぎりで間引き、生育の良い木に太陽の光を届かせました。

昼食後は「森の課外授業」を受け、サツマイモ収穫、３Ｄプリンターを使った木工、スラックライン、温泉入浴の４つに分かれて体験しました。

娘の彩華さん（小学２年）、華音さん（６）と一緒に初めて参加した小佐井麻里さん（37＝筑紫野支店）は「最初は二人とも山に入りたくないと言っていたけれど、実際に入ってみると進んで木を切っていた。クモの巣も、自然の中で見ると怖がらなかった」と話していました。

3Dプリンターで木を加工し、文字を入れ込んだ

❶くまモンと一緒に体操する参加者❷二人一組のレクリエーションで手を合わせ、笑顔で心と体をほぐす❸水分補給のポイントが載ったお茶が一人一人に配られた❹専門家から教えてもらったコツを確認し、手に重りを持って運動

No.2

いきいきクラブ大交流会

21カ所、174人が介護予防に汗

介護予防のために行われている「いきいきクラブ」の大交流会が、11月５日に農村環境改善センターで開かれ、１７４人が参加。情報交換や体操などで交流を深めました。

一昨年の10月に、上村と野中田２の２地区でいきいきクラブが発足。ことし10月に下里の「御大師クラブ」、下城の「極楽クラブ」の２地区を加え、現在21カ所にまで取り組みが広がっています。住民が各公民分館など身近な場所に集まり、週１回活動。元気に生活するための筋力をつける「いきいき百歳体操」などを行っています。

交流会は各クラブの交流を目的に昨年初めて開催され、２回目。開会式では、長谷和人副町長が「たくさんの人に集まっていただき、皆さんのパワーを感じる。各クラブの交流、活性化のために情報を交換しながら、楽しいひとときを過ごしてほしい」とあいさつしました。

参加者は「あんたがたどこさ」の音楽に合わせたレクリエーションで体と心をほぐし、各クラブの代表者が活動内容や今後の目標などを１分間で紹介。最高齢参加者や、最多参加者など各クラブから推薦された16人に町から表彰状が贈られました。

準備体操を済ませると、会場にご当地キャラ「くまモン」と町宣伝部長の「ゆっくん」が登場。２体と一緒に「いきいき百歳体操～くまもと県バージョン～」を行いました。

「大きな声を出す」「翌日に疲れが残らない程度に」など公立多良木病院リハビリテーション部の副技師長、那須優一さんのアドバイスを受けて、全員が効率的な体の動かし方を意識。手首や足首に重りを巻き、イスからの立ち上がりや、ひざの曲げ伸ばしなど約25分間、楽しく汗を流しました。

初めて大交流会に参加した御大師クラブの橋田祐明さん（81＝下里）は「いろんな地区の話を聞くことができた。地区に持ち帰って、活動の参考にしたい」と話していました。

❶華麗に舞うレクリエーションダンス❷完成度の高い展示品がそろう会場内❸真剣なまなざしで演奏する湯前中吹奏楽部❹音楽にのせて軽やかなステップを刻む社交ダンス❺ステージ発表の音楽に合わせて口ずさむ参加者

No.3

湯前町文化祭

発表、展示で心表す

第34回湯前町文化祭が11月2、3日に農村環境改善センターで開かれ、舞台発表や展示をめあてにたくさんの人が来場しました。

文化祭は湯前町文化協会（那須清文会長）が主催し、教育委員会や熊本県文化協会、老人会や地域婦人会、青年団などの団体と人吉新聞社が後援。作品展は同2、3日の二日間、舞台発表は3日に行われました。

開会式では、那須会長が「ことしもすばらしい作品がそろった。会員の皆さんの心が表れている。今日は最後まで鑑賞していただき、何かを得て帰ってもらいたい」とあいさつしました。

舞台では29種目の発表がありました。湯前保育園児の演舞で幕を開け、湯前小学校4年生が花笠音頭、湯前中学校吹奏楽部が吹奏楽と和太鼓の演奏を披露。会員は日舞や3B体操、フラダンス、社交ダンス、太極拳、民謡、カラオケなどを発表し、日ごろの練習の成果を発揮。それぞれの発表が終わるたびに会場から大きな拍手が送られていました。最後には青年団の若者7人が日舞を披露し、会場に華を添えました。

作品の展示には、写真や絵画、書道、工芸品、フラワーアレンジメントなど400点がずらりと並び、多くの来場者が見学。完成度の高さに目を丸くして感心していました。

小学４年生の花笠音頭を見学する大勢の観客

❶真剣な表情の合間にもれる笑顔❷保護者や住民など多くの人が見守る中で披露した棒踊り❸迫力のある太鼓を会場いっぱいに響かせた太鼓踊り❹太鼓や笛の音色に合わせて厳かに舞う球磨神楽

No.4

湯前中学校文化祭

伝統で感動届ける

湯前中学校（古家慎也校長）の文化祭が11月18日に同校体育館で開かれ、全校生徒92人が伝統芸能の継承活動や演劇、合唱など学習の成果を発表し、会場に感動を届けました。

開会式では古家校長が「練習の成果を発揮して、見ている人の心が温かくなるような発表をしてほしい」、実行委員長の藤岡顕将さん（同校3年＝上里3）は「一人一人が輝ける文化祭にしよう」とあいさつしました。

実行委員会によるテーマ発表のあと、オープニング映像を流して文化祭がスタート。同校で14年間取り組まれている伝統芸能の継承活動では、生徒が球磨神楽、浅鹿野棒踊り、東方組太鼓踊りをそれぞれ披露。生徒の額から流れる汗や真剣な表情は、たくさんの保護者や住民を感動させました。昭和38年度の卒業生も会場に駆け付け「涙が出るほど感動した」と生徒の発表をたたえました。

ステージでは、「子ども議会」や「職場体験」など総合的な学習の時間の成果を学年ごとに発表。演劇や英語暗唱、吹奏楽部の演奏、バンド、ダンス、学年対抗の合唱祭などがありました。

会場内には書道や町をPRするポスター、モザイクアート、科学展の作品、壁新聞などが展示され、生徒全員の頑張りが表れていました。

招待された昭和38年度卒業生とともに校歌を歌った生徒たち

湯前小６年生がPR大使に
地域の魅力を発信

湯前小学校（菅原浩子校長）の6年生29人が、11月2日に、教育委員会から「湯前町PR大使」として委嘱され、ふるさとをPRするパンフレット作りなどに励んでいます。

児童みずからが町の魅力を調べることで、ふるさとに愛着をもってほしいと教育委員会が企画。「総合的な学習の時間」を使い、「文化財」「イベント」「特産物」「自然」「施設」「お店」のテーマに分かれて活動します。中村和弘教育長が代表の永田悠大さん（同校6年＝上里３）に委嘱状を手渡し、6年生全員が「地域の良さや町民の思いをPRできるようみんなで協力します」と元気に意気込みを語りました。

学習の成果は来年２月ごろに発表する予定です。

中村教育長に決意を語った児童たち

湯前小５年生稲刈り・脱穀体験
初めてさわる機械に笑顔

湯前小学校５年生の脱穀体験が10月29日に、同校グラウンド近くの田んぼで行われ、児童36人が、脱穀機械を使い、稲から米粒の入っている「もみ」をはがしていました。

児童の食育の一環として行われ、JA青壮年部湯前支部（中神正支部長）が協力。児童は６月に田植えをし、10月22日に稲刈りをしました。

脱穀体験では、足で板をふみ、機械を回転させる「足踏み脱穀機」を使った昔ながらの脱穀と、現代の機械での脱穀の違いを２班に分かれて交代で学びました。児童は青壮年部員の指導を受けて脱穀機の板を踏み、楽しそうに作業しました。収穫したお米は給食などで使われます。

❶足で板を踏んでもみをはがす児童❷昔ながらの機械を使い、その苦労を実感❸稲刈り後にさおに干していた稲の束を運ぶ青壮年部❹目を輝かせて体験する児童

全日本学生柔道体重別団体優勝大会
本町で合宿する龍谷大が日本一に

日本一の看板を背負った選手と、交流を深める柔道クラブ

平成17年から本町で合宿を行う、龍谷大学女子柔道部（堀田幸宏監督＝京都府）が10月21、22日に兵庫県尼崎市で開かれた第10回全日本学生柔道体重別団体優勝大会で創部初の優勝を果たし、日本一となりました。

一チーム体重別の７人で構成され、大学柔道の団体日本一を決める大会。当日は湯前少年柔道クラブ（藤岡教顕監督）の10人も現地で応援しました。決勝戦では東海大学（神奈川県）と対戦。中堅、副将が勝利し、2対0で優勝しました。

以前同大学でコーチを務めていた藤岡監督は「チーム力での優勝に感動した。子どもたちには、日本一の選手たちとの交流でさらに刺激を受けてほしい」と話しました。

家庭教育講演会
命のありがたみ感じて

涙ながらに命の大切さを考える参加者

本町PTA連絡協議会（岩野浩平会長）の家庭教育講演会が11月13日に農村環境改善センターで開かれ、同PTA会員や児童生徒、教育関係者、地域住民など100人が参加し、命の大切さを学びました。

講演会は、家庭における教育の向上を目的に毎年開催。NPO法人「いのちをつなぐ会」代表の高濱伸一さんが、命の大切さについて講演しました。高濱さんは19歳の子どもを交通事故で亡くした自身の体験から、「一つとしていらない命はない」などと訴え、参加者は涙を流して聞き入りました。岩野会長は「改めて命の大切さを感じた。日常の小さな喜びも幸せとして捉えていきたい」と話していました。

立ち直りを支え続け30年
橋田さんが藍綬褒章を受章

人の役に立つことを喜びとして活動を続けている橋田さん

保護司として活動する橋田實子さん（74＝下里）が平成30年秋の叙勲で藍綬褒章を受章しました。

産業の振興、社会福祉の増進に貢献した人や保護司、民生児童委員、調停委員などの事務に力を尽くした人が対象。橋田さんは平成元年６月から町内で活動し、長年、犯罪や非行をした人との面接や生活の助言、家族との連絡調整を行い、立ち直りを支え続けています。11月14日に法務省で開かれた伝達式に橋田さんも出席。「苦労も悲しみもたくさんあったが、母の日に花を持って来てくれたり、日常の報告をしてくれたりするうれしい出来事もあった。改めて大きな仕事をしていると実感している」と話していました。

戸籍の窓

平成30年10月1日～11月31日

ご結婚おめでとう

柴田　尚輝（上里１）
熊井　真理奈（徳島県）

おたんじょうおめでとう

栗林　咲奈　桂一（野中田２）
的場　睦　　良太（中猪）
那須希乃花　貴紀（上村）

ご冥福をお祈りします

橋本　リツ（中里１）
椎葉　忠徳（古城）
橋本　育男（中里１）
片山　清弘（上里１）

香典返し

越智　富子（中里１）
橋本　正一（中里１）
椎葉東志子（古城）

ひとの動き

（10月末現在）

男性	1865人
女性	2104人
計	3969人
世帯数	1621戸

Dietary habits

管理栄養士だより

寒さに負けない体づくりに「ビタミンE」

ビタミンＥはビタミンＣとともに、抗酸化作用のあるビタミンとして知られていますが、寒い時期には「冷え」や「かぜ」に負けない体づくりにも役立ちます。ビタミンＥは毛細血管を広げ、全身の血のめぐりをサポートしてくれます。

ビタミンＥを多く含む食品

食品名（見当量：種や皮は除いた量）	ビタミンＥ
カボチャ（中 1/8 個：200g)	9.8mg
モロヘイヤ（１袋：１００ｇ）	6.5mg
うなぎ蒲焼き (1/2 枚：80g)	3.9mg
銀ダラ（１切：80g)	3.7mg
アーモンド（１０粒）	2.9mg
パプリカ（赤）(1/2)	2.6mg
アボカド (1/2 個)	2.6mg
キウイフルーツ（黄色１個）	2.0mg
オリーブオイル（大さじ１）	0.9mg

《ビタミンＥの目安量》

成人男性：6.5mg ／日
成人女性：6.0mg ／日

日本人の食事摂取基準より

料理するときのポイント
ビタミンＥは油と一緒に摂ることで吸収されやすくなります

管理栄養士　田中 朋子

Health

保健師だより

認知症を知る。それが支援の第一歩です

～認知症サポーター養成講座を受けたことはありますか？～

認知症の人や家族を見守る応援者

認知症サポーターは、「認知症サポーター養成講座」を受けた人で、認知症を正しく知り、認知症の人やその家族を温かく見守る応援者のことです。特別な活動をしなくてもかまいません。認知症になっても住み慣れた湯前で暮らすことができるよう、一人でも多くの人がサポーターになることを願っています。養成講座は全国で取り組まれ、サポーターは1000万人を超えています。受講者にはオレンジリングを配っています。

養成講座を受講する団体を募集しています

本町のサポーターは約500人。毎年湯前小学校５年生や各地区、老人クラブ、食生活改善推進員、民生委員や健康推進委員など、多くの人が受講しています。

受講したい人は、保健センター（℡0966-43-4112）へご相談ください。少人数でも構いません。サークルやグループ、団体などで気軽に受講してください。

保健センター　野々原　亜紀

Ecolog

ごみ情報

資源になる、「きれい」なものだけ リサイクルステーションへ

スチール、アルミ、びん、ペットボトル

●ふたやラベルを取り外し、きれいに洗って乾かす
　汚れが取れないとき・・・ごみとして指定の場所・収集日に出す

●指定の場所に備え付けのケースの中に入れる

備え付けのケースに入れず、袋に入ったまま放置されたペットボトル（汚れものあり）

●持ち込むときに使った袋は持ち帰る

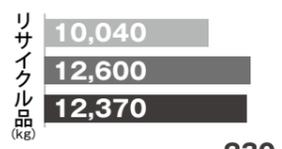
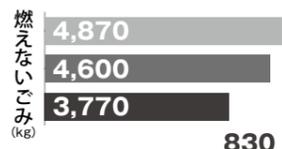
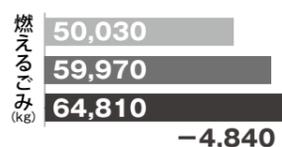
汚れていて、資源にならないごみ

衣類

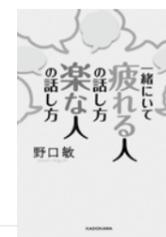
●衣類以外のものは出さない
●キレイなものをまとめてひもで十字に縛る
●バッグ、布団、毛布、座布団などは、リサイクル対象外。金具を取り外し、ごみとして指定の場所・収集日に出す

リサイクルステーションの衣類置き場にあったバッグ（リサイクル対象外）

※12月の不燃物収集は**５日、１９日**です（第１・３水曜日）

(kg)	9月分	10月分	昨年の10月分	
燃えるごみ	50,030	59,970	64,810	−4,840
燃えないごみ	4,870	4,600	3,770	830
リサイクル品	10,040	12,600	12,370	230
粗大ごみ	480	510		
有害ごみ	60	40		

Books

読書のススメ

中央公民館図書室 ※貸出期間２週間/一人５冊まで
〇平日 午前8時30分～午後5時　〇土日・祭日 午前9時30分～午後5時
問教育委員会 TEL0966－43－2050

本当に愛される話し方
一緒にいて疲れる人の話し方 楽な人の話し方
野口敏（著）　KADOKAWA

「あなたと話すと疲れない」。誰からも評価され、最良の人間関係を築くことができる人は、そうでない人とどこが違うのか？上司、友達、恋人・夫婦、ヤバイ空気がスッキリ円満。68の「あるあるエピソード」を踏まえて、解き明かす「本当に愛される話し方」の極意。

バブル世代へ向けた老後の道しるべ
50歳からのかろやか人生
木村和久（著）　雷鳥社

「オヤジは、第二形態へ変身します。だから、世の中の見え方が変わってきます。好きなものを見つけて、ハマればいいのです。そこで起きた出来事を、心底楽しめばいいのです」。体は枯れても頭の中は未だ現役気分。バブル世代(50~60歳)へ向けた老後生活の道しるべ。

かわいいねずみの家族愛
14ひきのもちつき
いわむら かずお（著）　童心社

薪をわるお父さん。かまどに火を入れたおじいさん。おばあさんとお母さんは、お米の準備。子どもたちも起きてきて、お手伝いします。さあ、いよいよおもちつき。ぺったんとったん、どんなおもちができたかな？

あふれるドラマ
11ぴきのねこマラソン大会
馬場 のぼる（著）　こぐま社

おなじみの“11ぴきのねこ”を含む21匹のランナーたちが、難コース、珍コースをくぐり抜け、ゴール目指して力走する。沿道には応援のネコたちばかりでなく、町や村でのありとあらゆるネコたちの生活があふれ、数えきれないドラマが描かれている。

地域おこし協力隊'sDiary 現場「目線」でリポート

リポーター　椎葉 賢也

県内初開催
地域おこし協力隊マルシェ

❶石倉で開かれた県内初のマルシェ❷海から山のものまでおいしい食べ物がずらり

10月27日には人吉球磨郡市と水俣市、芦北町、津奈木町による合同の地域おこし協力隊マルシェが開催さました。県内では初めて。多良木町交流館「石倉」でそれぞれの活動報告や手作りジンジャーエールの販売などがありました。ちなみに体を温めてくれるショウガですが、体を温めてくれる「ショウガオール成分」は加熱（100度以下）しないと生成されませんので寒い冬はホットジンジャーがおすすめですよ。

大小132台が湯前へ
RVランドキャンプミーティング

グリーンパレスを埋め尽くす132台のキャンピングカー

10月20日、21日、RVランドキャンプミーティングがグリーンパレスで行われました。小さなものから大きなものまで132台のキャンピングカーが集結しました。300人以上の人が1泊2日で湯前を満喫していました。

協力隊のゆのまえ暮らし（隊員がゆる〜く近況報告）

最近、道ばたに咲いている花をふと撮ります。今まで意識していなかったのか、この年になって初めて野生のリンドウの花を見た気がしました。花言葉は「勝利・正義感」といった意味もある一方、「あなたの悲しみに寄り添う・悲しんでいるあなたを愛する」という意味もあります。一本一本ひたむきに咲くリンドウだからこその花言葉かもしれませんね。

地域おこし協力隊
椎葉 賢也

Sports

第66回球磨一周市町村対抗熊日駅伝
沿道での声援をお願いします

本町から３チームが出場予定で、コース後半に本町を通過します。皆さんの応援をお願いします。

１位通過予定時刻

区間	コース	時刻
スタート	岩野小学校前分岐点	10：00
１区	岩野小学校前分岐点　〜　元西村繊維前	10：22
２区	元西村繊維前　〜　須恵小学校前（女子区間）	10：30
３区	須恵小学校前　〜　木上コミュニティセンター前	10：54
４区	木上コミュニティセンター前　〜　人吉城跡ふるさと歴史の広場前	11：22
５区	人吉城跡ふるさと歴史の広場前　〜　錦町役場前	11：51
６区	錦町役場前　〜　元九州相良観光バス前（中学生区間）	12：05
７区	元九州相良観光バス前　〜　上球磨消防署前	12：24
８区	上球磨消防署前　〜　岩野小学校グラウンド	12：50

【候補選手】福屋博樹、椎葉太、北崎順也、古賀宏、永田洋介、荒木龍二、桑原成吾、植木圭一郎、大野慎也、椎葉祐介、葉山修英、田代翔也、椎葉直斗、大林達明、橋本康平、工藤正明、合志泰紀、工藤祐二、工藤孝昭、稲葉翔太、永田幸太郎、多田恵太、大平修市、山崎隼汰、森川勝己、大山亮仁、椎葉亮太、中田光、中田翔、福屋渉、篠宮光陽、北崎雄一郎、落合諒、中村孔亮、浜崎魁世、浜崎郁乃、秋山菜々美、永濵香琳、椎葉愛華、深水帆乃華

【監督】岩野昌英、椎葉太、桑原成吾　【マネージャー】福永一二、髙木堅介、右田千晴、黒木あさみ

※コースや周辺道路は混雑が予想されます。通過時間中はコースへの進入をご遠慮ください

お問い合せ　B&G海洋センター　℡0966－43－4555

2018 No.5

Community

婦人会だより

地域婦人会
会長 橋田 實子

急激に冬が到来し、寒くなってきました。衣服の調節をしながら、ことしもやってくるであろうインフルエンザの対策をしましょう。

10月23日（火）　人吉農芸学院運動会
都合で出席できない保護者の代わりに、親子競技に出場しました。

10月28日（日）　県婦連ミニバレーボール大会
▶宇城市不知火体育館
球磨郡代表の久米校区が見事二部で優勝しました。

会場の皆さんと一緒に手遊びをした町民文化祭

11月 3日（土）　町民文化祭協力
▶農村環境改善センター
サザエさんの曲に合わせて会場の皆さんと一緒に手遊びをしました。

11月 7日（水）〜8日（木）　日本赤十字九州八県熊本大会
▶熊本市県立劇場
赤十字副総裁の三笠宮信子妃殿下をお迎えし、盛大に行われました。日本奉仕団の一人として、受付にかかわりました。

正月用に作るフラワーアレンジメント

これから

12月の支部長会　正月用のフラワーアレンジメント制作

App

スマホで広報湯前

アプリ「マチイロ」を使うと、スマートフォンでも広報湯前が読みやすくなります。下のQRコードからダウンロードして簡単な登録を済ませるだけです。

※アプリのダウンロードや登録は無料ですが、通信料は利用者の負担です
※アプリの閲覧中に広告が表示されますが、その内容に本町は一切責任を負いません

Front Page

今月の表紙

湯前中学校では、地域の伝統芸能の継承活動を14年も続けています。威勢のいい掛け声と太鼓、鐘を会場に響かせた東方組太鼓踊り。大将の額から流れる汗が、真剣に取り組んできた生徒たちの姿勢を物語っていました。

編集後記

▼漫画フェスタで恒例となったコスプレ。私は「のび太」になって、会場の撮影に挑みました。まわりの人からは「似合いすぎ」と好評。喜んでいいのかどうかは分かりませんが、楽しんでいただけたようで一安心です。やってみるまでは恥ずかしいけれど、やってみるとおもしろい。皆さんもコスプレで参加してみると、もっとイベントを楽しむことができるかもしれませんね。動きやすさを求めるあまり風邪が悪化してしまいました。来年は長袖長ズボンのキャラにします。

▼ことしもPR大使の講師として湯前小6年生に45分間授業をしました。広報誌とパンフレットは違いますが、読む人の気持ちを考えて作ることが大切だと伝えてきました。児童に教えた側として、私も今まで以上に気を配って誌面を作りたいと思いました。

▼B&G海洋センターの体成分分析機を使ってみると、筋力は平均以下、脂肪は平均以上という悲しい結果が待っていました。来年で20代は卒業。体重が増える正月を迎える前に、食後と寝る前に運動をして、せめて平均までもっていきたいと思います。（宏）

【お詫びと訂正】
広報湯前平成30年11月号の26㌻、ゆのまえがおに誤りがありました。訂正し深くお詫び申し上げます。
【誤】湯前小学校5年生の皆さん　【正】湯前小学校4年生の皆さん

広報湯前
活き活きと輝き、誇れる町の今をあなたに届ける
Public Relations Since1962.
12 Dec 2018 Vol.450

熊本県高校駅伝で優勝し全国駅伝へ出場

感謝を力に。感動を与える走りで恩返し

栗原 泉さん(千原台高校2年＝上染田)

平成30年度熊本県高等学校駅伝競走大会が10月27日に熊本市えがお健康スタジアム発着の周回コースで開かれ、女子(5区間・21・0975キロ)に出場した千原台高校(塚本大介監督＝13人)が1時間11分34秒で5年ぶりに優勝した。栗原泉さん(同校2年＝上染田)は最終区、5区(5キロ)を務め、区間賞の走りでチームに貢献した。

2度の九州大会出場など、湯前中時代からすでに頭角を現していた栗原さん。当時「姉が果たせなかった九州駅伝と全国高校駅伝に出場したい」と緑さん(現・東亜大学2年)と同じ高校に進学することを決めた。

1年前は、1年生ながら大役の最終区を任され、17分32秒で区間3位。千原台は4位に終わった。昨年12月にはケガでレースを離れ、ことし5月まで思うように走れなかった苦しい時期が続いていた。

レース前日にはコースを知り尽くす先輩、上田結也さん(創価大学3年＝野中田1)から「入りを突っ込まず、でもペースは上げて」「気負わずに行け」などと助言をもらった。

迎えた本番。「チーム全体の調子が上がっていたので、すべてを出し切りたい」と勝負に挑んだ。メンバーの最高のサポートや勝負所の前半で必死にくらいついてくれたチーム。1位でたすきを受けた栗原さんは自分の持っている全力を出せる確信を持った。5キロを区間賞の17分06秒で走り抜き、一番にゴールテープを切った。

「つらい練習を一緒に乗り越えてきた仲間、下宿でいつもお世話をしてくれる監督の奥さんや、応援してくれる皆さんのおかげで再び走れるようになり優勝できた。全国大会では、感謝の気持ちを忘れず、皆さんに勇気と感動を与えられるような、千原台らしい走りをしたい」と栗原さんは決意を語る。全国駅伝は12月23日に京都府で開かれる。

「明るく元気」がチームカラー。個性を尊重することが練習にもうまくつながっている(左前2番目:栗原さん)

平成30年11月30日発行第450号
発行/湯前町役場総務課 https://www.town.yunomae.lg.jp/ 〒868-0621 熊本県球磨郡湯前町1989-1 TEL0966-43-4111 印刷/㈲ソーゴーグラフィックス